

柳津小学校だより

鳴神山



2020, 10, 16 No. 28

柳津町立柳津小学校
発行者 校長 星 潔



やないづクエストお世話になりました！

10月9日（金）に「やないづクエスト」を実施しました。この行事を行うにあたって3つの目標を設定しました。

- ① 柳津町内の豊かな自然や文化に触れる体験を通して、地域のよさに気付かせる。
 - ② 校外における集団活動を通して、教師と児童、児童相互のふれあいを深め基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、ともに協力して集団生活をしようとする態度を育てる。
 - ③ 様々なミッションを解決することを通して、柳小推進テーマ「やるぞ なかまと いつでも ずっと 大好き 笑顔あふれる チーム柳小2020」の達成を目指す。
- です。

①の目標では、全てを見学したわけではなかったですが「円蔵寺」「奥之院弁天堂」「大清水」「斎藤清美術館」「良寛像」「ほっと in やないづ（縄文館 足湯）」「斎藤清アトリエ館」「魚淵」「柳津観洗船」などの名所を訪れ、改めて町の良さに気付いたようです。

②の目標では、縦割り班での活動を通して、友達の良さを再認識したようです。4年生は、班長、副班長として本当によくがんばりました。齋藤千愛さんの作文に「遠足で分かったことは協力することの大切さです。」と書いてありました。4年生が班をよくまとめてくれました。

③の目標では様々なミッションに班ごとに協力しながらチャレンジすることで柳小推進テーマの達成が図られたと思います。

それにしましても、たくさんの皆様のご協力を得て、この行事は実施することができました。先に記述した名所ポイントの皆様はもちろん「役場（教育委員会）」「B G」「公民館（ふれあい館）」「会津柳津学園中学校」「さくらや」にも大変お世話になりました。いろいろと失礼な点があったかもしれませんがこの場を借りてお詫びいたします。

ピンチをチャンスに変えようと、全職員が一致団結して取り組んだ「やないづクエスト」でしたが、子どもたちの自己肯定感や非認知能力を伸ばすことができましたと思います。保護者の皆様、関係各所の皆様、ご理解、ご協力に心より感謝いたします。



＜開会式です＞
＜中学校で＞



＜まずは先生を仲間に＞
＜足湯の温度は？＞



＜次は5年生を仲間に＞
＜大清水＞



＜6年生を探せ＞
＜柳津観洗船＞





<さくらや> <1～3年生にはメダル> <5,6年生に賞状> <4年生に賞状>

校長のひとりごと

やないづくエストでは全職員の知恵を結集して、様々なことにチャレンジしました。まず設定です。「ダークデビル」が校長の体に乗っ取り、柳津小学校をだめな学校にしようとしています。もしも子どもたちがルールを守り、目標を達成し、ゴールできたら校長の体を返し、元通りの意欲に燃えた学校に戻すというものです。次はミッションです。様々な場所を地図を頼りに回る順序も子どもたちが考え移動します。そしてポイントで教師よりミッションが渡され協力しながら解くというものです。(例：魚淵にて「うぐいは何科で体長は何cmでしょうか」)いずれも近くの看板等を見れば解答できるものです。また学年限定ミッションも設定しました。1～3年生は、教育委員会、BG、ふれあい館、中学校に1人で行き、スタンプをもらってくるという勇気ミッションです。どきどきした表情ながらも全員がやり遂げることができました。3年生は大清水で500mLの空のペットボトルに300mLの水を飲んで持ち帰るというもの。4年生はさくらやで班のみんなが買いたいものを計算して400円ぴったりにするというもの。5年生は足湯で湯温を予想するというもの。6年生は観光船からの景色を見ながら俳句を作るというもの。3年生以上のミッションはいずれも学習と関連させた学習ミッションを設定しました。その他にも5,6年生には名所の写真撮影ミッションがありました。これぞという1枚を撮影し、写真コンテストに出品するものです。職員室前に掲示してありますので、柳小秋祭りの際にでもご覧ください。聖水の守り人の教頭先生を探せというミッションや町の人や観光客の人をお願いして班全員の写真を撮ってもらおうミッションもありました。今回、教職員は安全面や健康面、時間の管理などは行いましたが、ミッションは子どもたちだけで考えさせました。自分たちでやり遂げる体験をさせたかったからです。見事に子どもたちは全班がゴールし、「ダークデビル」から柳津小学校を守り抜くことができました。

今回の行事を実施して思ったことは、子どもたちはすごいということです。自分たちだけで考え、ルールを守り、どの班も活動することができました。意欲に満ちあふれ、協力し、相手を思いやることができました。閉会式で「感動しました」と子ども達に話をしましたが、ぜひご家庭でも自分でやり遂げる体験をさせていただけたらうれしいです。そして手前味噌になってしまい申し訳ありませんが、本校の教職員はすごいということです。時間があまりない中だったのですが、1つにまとめ、子ども達のために、すばらしい学校行事を作り上げました。校長として子ども達と先生方のこのような姿は心の底からうれしいものでした。私たち教職員はこれからもコロナ禍の中ではありますが、子ども達の健やかな成長のために、保護者の皆様との連携を大切にしながら取り組んで参ります。これからも「チーム柳小2020」として更なる高みを共に目指していきましょう。

<子ども達の作文より> (一部抜粋)

・班長というのはすごく重要で、すごく責任がかかってとても大変でした。でも班長になって大変さが分かったけれど、おもしろさも分かりました。(4年 鈴木 望夢さん)

(班長は大変だったと思います。でも班長としてのおもしろさも感じ取れるなんて、望夢さんは本当にすごいです。)

・「やないづくエスト」はストーリーみたいになっています。なぜならその方がやる気ができるからです。校長先生が変装してやる気を出させてくれるのです。(5年 目黒 碧唯さん)

(私の思いを分かってくれて、涙が出るほど嬉しかったです。碧唯さん、素敵な作文をありがとうございました。)